

グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第98号 2023年11月19日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

世界宣教会議@ロサンゼルス

吉田 隆

9月にロサンゼルスで開催された世界宣教会議に出席しました。この地が開催地に選ばれた理由の一つは、1906年にアズサ・ストリートと呼ばれるところで聖霊のリバイバルが起こり、その影響が世界各地に及んだからです。

それから100年以上が経過しました。イエス様が十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目によみがえられ、天に挙げられ、聖霊が注がれて新約の教会が誕生して、2000年を迎えようとしています。一方地球上に住む人々の数は80億人を超えました。主がご再臨なさる前に、この人々に福音が届かなければなりません。

世界宣教会議@ロサンゼルス 吉田 隆.....	1-3
アドナイ・イルエからの助け 吉田成就.....	4
行者ニンニク 吉田恵利子.....	5
グレート・コミッションを読んで 藤江良嗣.....	6
感謝とご報告・祈りの課題.....	6





ビリー・ウィルソン師

アズサストリート

リトルトーキョー案内看板

ビリー・ウィルソン師の激励

世界宣教会議の初日、オーラル・ロバーツ・ユニバーシティの現在の学長であるビリー・ウィルソン師がご挨拶くださり、激励してくださいました。ウィルソン師は、世界ペンテコステ大会を主催する世界ペンテコステフェローシップの代表であると同時に、Empowered 21 の会長も務めていらっしゃいます。

スマホとインターネットの時代

世界人口 80 億人のうち 55 億 6 千万人の人がスマートフォンの利用者であり、その割合は 69.1% だそうです。

インターネットの利用者は 64.5%、SNS (Facebook、ツイッター、インスタグラムなどのソーシャル・メディア) を使っている人が 60.6% いるのだそうです。

しかも、そうした利用者は西欧諸国に限らず、アジア、アフリカ、南アメリカなど、貧しいと言われている国々でも高い比率を占めています。また、女性の識字率が 83.3% 男性が 90.1% であるという数字は、世界中の人の 9 割がスマホなどを通して与えられる情報を理解することができる時代になったことを意味しています。

こうした社会の変化をだれもストップすることはできません。実際全世界がこの 3 年間に経験したコロナ禍に於いて、キリスト教界もこうしたサービスを取り入れ、活用せざるを得ない状況に追い込まれたと言えるでしょう。

そしてまだ福音を聞いたことがない人たちや、まだ信仰を持っていない人たちに到達していくためには、キリスト教界もこうした方法を、有効に取り入れていかなければならない時代に来ていることを認識させられました。

すべての人に福音を

宣教会議の中で、もう一つの注目すべきプレゼンテーションは、2033 年までに地球上に住むすべての人に福音を伝えよう！という“EVERYONE”という企画でした。これは Empowered 21 というグループによって呼びかけが行われているものです。イエス様が生まれた年を AD 0 年とすると、イエス様の地上生涯が 33 年でしたから、2033 年はイエス様の昇天から 2000 年ということになります。ですから、今から 10 年の間に、なんとか地球上に住む 80 億人を超えるすべての一人ひとりに福音を伝えようという企画です。

様々な伝道組織 (団体、教団、教会) が、それぞれに自分が任されている地域のすべての人に伝道するために、戦略を練ります。そしてその必要な予算を EVERYONE に提出します。EVERYONE はそれを審査し、財政的な援助をします。すでに 10 億 5 千万円が集められ、15 億円の約束献金が捧げられているそうです。そして、最終的には 1500 億円のお金がこのために用いられることが目標として掲げられています。



アズサ・ストリートの上に、リトルトーキョーの印がある



アズサ・ストリート24時間祈りの塔の中

一人ひとりの魂を主は愛していらっしゃるのですから、なんとかして私たちは、それらの人たちに福音を届けていかなければならないのです。

アズサ・ストリート訪問の驚き

会議の最終日、参加者はいくつかミニストリーが実践されているところを見学しました。そして、最後に訪れた所は、アズサ・ストリートでした。この場所は、アフリカ系アメリカ人のウィリアム・シーモアがロサンゼルスのアズサ・ストリートにやって来て、1906年4月9日から起こったリバイバル発祥の地です。その噂を聞きつけた人々がこのアズサ・ストリートの集會に世界各地からやって来て聖霊の恵みを受け、それを持ち帰った先でも聖霊の火がやって来たというところ。このリバイバルは1915年まで続いたと言われています。

私は、キリスト教の歴史としてアズサ・ストリートのことを聞いていましたが、実際に訪問するのは初めてでした。そして、驚いたことが3つあります。

第一は、アズサ・ストリートが短い道だったということです。日本で言うところの1丁（1ブロック）ほどの短い距離でした。今は、赤煉瓦の公園のようになり、ここで1906年からリバイバルが起こったという説明の標識が置かれていました。聖霊によって火に燃やされた人々がここから世界に出かけて行く基地となったのです。

第二は、インドネシア人の牧師であるニコ師が中心となり、かつてその拠点となった建物を24時間祈りの塔として用いるために改装が進められていたということです。このニュースレターが発行される時点では、

改装が完了し、祈りの火が燃やされ始めているかもしれません。

私たちは、カギがかけられており、まだ改装工事が行われていた建物の中に特別に入れていただき、見学することができました。完成の後には、24時間ネットで世界とつながれて、祈りが捧げられるでしょう。

第三は、この同じ場所がリトルトーキョーと呼ばれる場所だ！ということです。日本でも横浜や神戸にはチャイナ・タウンがあり、そこには中国から来た方々が商売をしたりレストランを構えたりしています。同じようにこの場所はロスに住む日本人たちが町を形成した場所として知られているところなのです。

インターネットの記事「リトル・トーキョー」から抜粋しますと、「1988年日系移民のほとんどがキリスト教に改宗したためYMCAが設立された。1905年『リトルトーキョー』『小東京』という名称が一般的になる。1906年アズサ通りにあるキリスト教会で現在のペンテコステ派の土台となる集會がもたれるようになり、全米の注目を集める。このころの急激な日本人増加からロサンゼルスでの排日ムードが高まる。1907年小東京の人口が3万人を超える。」

この年代はアズサ・リバイバルと重なっており、間違いなくここにいた日本人がその影響を受けたに違いないことを推測させるのです。残念ながら現在リトルトーキョーはかつての繁栄はなく、日本人も他の地域へほとんど移り住んでしまったそうです。

私たちは、過去のリバイバルに頼っても得られるものは何もないでしょうが、歴史の摂理から未来に神が与えようとしてくださっていることを、つかみ取っていくことができるのではないのでしょうか？

チャレンジ！バングラデシュ会堂建設プロジェクト

バングラデシュに会堂を建設しよう

1つの会堂の建設費は約300万円です。現地の教会の信徒は建設のために奉仕します。

教会・教団・個人でまとまったご献金(50万円以上の)をいただいた場合、会堂玄関に名前を刻んで現地の教会は名前を挙げてお祈りします。現在、みなさまのご協力により1つ目の会堂のための献金が揃いました。2つ目の会堂のための蓄積が始まっています。これは祈りによって神の国の相互関係を強めるプロジェクトです。

詳しい資料をご希望の方は、aojoffice@gmail.comまで、お問い合わせください。

今年の初め、KBI（関西聖書学院）の舎監である富浦先生の部屋で重い空気の中、私は相談していました。三年生に進級するか、一度修了するか、についてです。私は、経済的な壁にぶつかっていたのです。

神様に導かれて、KBIに入学した私は、そのまま卒業を目指し、主が望んでおられる働きに出て行きたいと思っていました。そして、たくさんの恵みの中で二年生を修了する目前までやってくることができました。

当初は、卒業までの経済的な目処が立っていました。しかし、二年生が終わる前に様々な問題が起こり、三年生の学費を払えなくなりました。それに加え、三年生に上がると決まっていたのは私を含め3人しかおらず（私が二年生の時の三年生は15人いましたが）、もし私が三年生に上がったなら多くの役職と責務が課せられることが分かっていました。

三年生に上がる直前に、急にこんな試練がやってくるなんて……。もしかしたら私が三年生に上がることは神様の御心ではないんじゃないか、そのような考えが頭を過ぎりました。

私は、舎監の先生の扉を叩きこのように切り出しました。「私は、三年生の学費を払えません。ですから、卒業後返済させて下さいませんか？それが認められないということでしたら、一度社会で学費を貯めてから再び戻ってくるように考えています。」先生は、暫く沈黙し、切り出しました。「問題はそこじゃないんじゃないか？」そして、先生はご自身がKBIで学んだ時の話をしてくださいました。

先生は神様に示され、全てを捨ててKBIに入学しました。家族を養う責任がある中で、収入が0の状態です。でも、神様に語られたからやってきた。

KBIでの経済も守られ、卒業後も舎監の今も、妻と6人の子供たちとここまで守られている。この道を選んで決して収入は多くない。でも支出の記録を出せばきっと、辻褄が合わないぐらい守られて来た。

「神様に従う道に経済的な問題は必ずついてくる。でも、神様は不思議と満たしてくれるんや。そして、神様が何を願っているかもう心で分かってるんちゃうんか？」そのように迫られ、私は大泣きしながら「三年生に上がります」と言いました。その後、三年生は7人でスタートし現在に至っています。

先日、事務室から連絡があり私の学費がアドナイ・イルエという方から支払われたということが知らされました。私が学費を払えないこと、又、払えない金額というのは一部の人が知りませんでしたので、私は心当たりのある人に尋ねました。しかし、誰も知らないとのことでした。むしろそのように支払われたことに驚くばかりでした。

父は「支払ってくれたのは、天のお父さんであることは間違いない」と言いました。確かにその通りだと思いました。私は、主が生きて働いておられること、祈りに応えてくださることをこのような不思議を通して体験できたことに激しい感動を覚えています。皆さんのお祈りに支えられて、この道を歩むことができることに感謝しています。

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」（マタイ6：33）

「アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、『主の山には備えがある』と言われている。」（創世記22：14）



KBIバザーにて



KBI三年生と日本伝道会議参加

森の中の散歩道、木立の中を、小さな星の形をした清楚な花が、辺り一面に咲き乱れている。スイスに住む娘、摂理の夫の両親と病院からの帰り道、森の中を散歩しながら帰ることになった。孫の誕生を主に感謝しながら、感慨深くしみじみと歩いた。

お花の名前は、スイスドイツ語で「ベアラウフ」。お花を眺めているだけで、幸せな気持ちになる可憐なハーブ。この「ベアラウフ」は食べる事が出来る野草なのだそうだ。

花が咲く前の、やわらかい薄緑色の葉の時が食べ頃。生のままサラダにしたり、松の実やオリーブオイルと共にペースト状にし、瓶詰めにして、保存食を作る。このソースでスパゲッティーをいただいたが、それはそれはとても美味しい。お店でも「ベアラウフ」入りペースト、パン、ソーセージなどが売られているが、それらは高級品だ。ところが、これを森で摘むとただである。

この「ベアラウフ」は「熊さんのネギ」という。英語では「ワイルドガーリック」日本では「行者ニンニク」と呼ばれている。日本でも北海道の名産品であるとのこと。

「行者ニンニク」はニラを上品にしたようなネギっぽい味で、ニンニクの香りがする。スイスでは、マーケットでニラは売られていない。

そう言えば、娘がスイスで結婚した時、近郊の山を散歩したことがあった。その早春の森の中で、芽吹いたハーブを摘んだ。ニンニクの香りがして食べられるのだと教えてもらったことを思い出した。

行者ニンニクという、ニラのようなハーブがスイスにあるのだと、パリの方から教えて頂いた事があった。ところが、この行者ニンニクの葉はスズランの葉にそっくりだ。強い毒性のあるスズランを、間違えて食して命を落とすという恐ろしいニュースが毎年報じられ

ている。日本では、秋になると毒キノコを間違えて食べてしまう事件が報じられるように。

特に旬の時期は、まだ花が咲いていないので、スズランとの見分けは難しい。葉をこすって無臭なら猛毒のスズラン。ニンニクの香りがするなら行者ニンニク。これが間違えないための目安になるそうだ。

ところで、フランスでは5月1日はミュゲの日（スズランの日）で、愛する人やお世話になった人に、男性から女性へスズランの花をプレゼントする慣わしがある。「のだめカンタービレ」（映画、漫画、ドラマになった）でも、オーボエ奏者の黒木君がピアニストの「のだめ」に、スズランの花を贈るシーンがあったことを思い出す。スズランは花嫁のブーケに使われたり、北欧の国花にされたり、ヨーロッパでは、イエス様の母マリアの花として、人々に愛されている花である。出産直後の娘は、スイスのスーパーでは手に入らないニラの代わりに、行者ニンニクで作った餃子が食べてみたいと願った。この時、行者ニンニクは、既に花が咲いて旬を過ぎていた。まだ食べることが出来ると言われたものの、慣れない行者ニンニクの野草摘みは不安だったので、娘の夫の両親にお願いして、一緒にたくさんの方の行者ニンニクの葉を摘んでもらった。家に帰ってきれいに洗い、葉を細かく刻み餃子を作った。退院のお祝いに牧師先生や娘の夫の両親とその家族を招いた。前日に両親も採ってくださった行者ニンニクで作った餃子に感激して、沢山喜んで食べてくださった。ディナーとデザートを作り、幸いな内輪でのお祝いの時をもった。



吉田恵利子絵画個展

～風のしらべXI～

2024年3月5日 火～10日 日 12:00～19:00

(最終日は17:00まで)



ギャラリー

ヒルゲート 2F

〒604-8081

京都市中京区寺町三条上ル天性寺前町535

TEL 075-231-3702(1F)

URL <http://www.hillgate.jp>

グレイト・コミッションを読んで

毎年12月になると吉田先生ご夫妻が、当地へ来てくださいます。当教会のクリスマス・コンサートのゲストとして、三重県伊賀市の伝道を助けて下さるのです。隆先生と恵利子先生のデュエットによる「The Holy City 聖なる都エルサレム」が、田舎の盆地に響き渡ることが当教会の風物詩です。深く優しい隆先生のお声と、澄み渡る豊かな恵利子先生の美声が、一気に会場を豊かな恵みに引き上げてくれるのです。今年も先生ご夫妻が来て

下さるのですが、なんと今年で17回を数えます。当教会にとっては、クリスマスの恒例行事になっております。海外だけでなく、日本国内においても福音伝道のお働きにご尽力されておられる先生ご夫妻のお働きが更に祝福されるように祈っております。



(伊賀上野) IGA 上野福音キリスト教会

牧師 藤江良嗣

感謝とご報告

- 吉田隆・恵利子宣教師は、9月8日から19日まで米国ロサンジェルスで奉仕をさせていただきました。報告は本号P1～3をご覧ください。
- 吉田恵利子宣教師の絵画個展“Christmas in October”が10月18日から22日まで、大阪府富田林市の南大阪福音教会21世紀館で開催されました。最終日の22日には南大阪福音教会で礼拝コンサートが行われ、午後2時から教育館の展覧会会場で、クリスマス伝道コンサートが行われました。
- グレイトコミッションニュースレターの前号で、バン格拉デシュに教会堂を6つ建設するための献金をお願いしました。その結果、280万円以上が捧げられ、第一の会堂のためのプロジェクトが動き始めました。第二の会堂のための献金が現時点で半額以上捧げられています。引き続き支援が与えられますように。このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バン格拉デシュ会堂のため」とお書き添えください。
- スイス在住の摂理姉家族は、10月末から3週間、フィリピン聖書学校記念式と宣教のためにフィリピンを訪問致しました。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画で80万円の予算を立てています。前号の時点で124,000円でしたが、呼びかけに応じて10月11日時点で444,000円が与え

られたことを感謝します。イスラエルは現在戦争状態にあります。政情と財政が整えられますように。

このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。

祈りの課題 (以下の祈禱課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田恵利子宣教師は、11月25日から12月10日まで、伝道の目的でクリスマス個展IVを大津市坂本のギャラリー楽心庵で開催します。開催期間中11月30日と12月7日に伝道のためのコンサートが行われます。
- 吉田隆・恵利子宣教師の各地でのクリスマスの働きのために。
- 吉田恵利子宣教師の個展「風のしらべXI」が、2024年3月5日から10日まで、京都市中心部のギャラリー・ヒルゲートで開催されます。
- 吉田ファミリーの2024年の国内、海外の働きが主によって導かれますように。
- 吉田成就兄のKBI(関西聖書学院)卒業後の働きが主によって導かれますように。
- 飛行機の運賃が燃料費の高騰などの理由で値上がりしており、円安の状況下で海外の働きが活発になったきた関係で、グレイト・コミッションの会計が困難になっております。
- 吉田ファミリーが霊的な戦いから守られ、病気や事故や怪我から守られますように。それぞれの健康が支えられますように。

